

会 議 録

会議の名称	アイセルシュラホール活用事業 第2回検討会議
開催日時	2022年10月7日(金) 10時00分から12時00分まで
開催場所	アイセルシュラホール 3階視聴覚室
出席者	有識者 大手前大学 森下教授 阪南大学 和泉教授 四天王寺大学 天野教授 大阪府 教育庁 文化財保護課 土屋課長補佐 三好主査 藤井寺市 観光課 松宮課長 松田チーフ 文化財保護課 新開課長代理 藤原主査 福田専門官 生涯学習課 木村課長 図書館 松浦館長代理 事務局 株式会社スタジオ三十三 撫養 小林 林 小柳
会議の議題	アイセルシュラホール観光拠点化基本構想の作成について
会議の要旨	・施設の現状確認及び必要機能と内容、ゾーニングの修正案について ・観光案内計画及び文化財展示計画案について
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他 ()
公開・非公開の別	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	—
その他の必要事項	

打ち合わせ内容：

1. 参加者紹介

- ・事務局より参加者を名簿順に説明

2. 基本構想（案）について

1) 第4章必要機能と内容の修正案について（説明：事務局）

（有識者）

- ・アイセルシュラホールから出発する際の駐輪場の問題はどうするか
→シェアサイクルの設置を予定している（観光課）

（有識者）

- ・1階ビジターセンターは季節やイベント毎に合わせて変更し、動きのあるスペースが望ましい

- ・p21 4-2 文化財展示（重要文化財を含む）の後に「4-3 維持される機能」の項目を追加したほうがよい

（有識者）

- ・開館時以外の時間帯でもお手洗いや温室を利用できるようにしつつ温室が屋外のシンボルになるようにカフェスペースや陶器市などのイベント期間だけではなく常時、地域住民の方々が楽しめるような場所にしたい

- 休館日、開館時間は今後検討していく（観光課）

（事務局）

- ・p20 4-1 観光機能 屋外に「③藤の森古墳」の追加を検討する

2) 第5章ゾーニングの修正案について（説明：事務局）

（有識者）

- ・カフェスペースにコンビニを誘致したらどうか
→民間の力を借りて運営をしていきたいと思っている（観光課）

（生涯学習課）

- ・今回のゾーニング案には現在、利用している地域住民の方々がゆっくり過ごせる場所が減ったように感じるので、地域住民の方々にも引き続き利用しやすいゾーニングにすべきである

- ・修羅（大）レプリカをピロティに設置する場合、駐輪スペースの確保を考えなくてはならない

- シンボルとして扱うのは賛成だが、駐輪場などが使いづらくなってしまうのは良くない（有識者）

- 既存の駐輪スペース以外に駐輪スペースを設ける（観光課）

- ・修羅（大）レプリカをピロティに設置すると風雨で劣化が早まるのではないか、また転落防止措置やイタズラ対策も考えなくてはならない

- 劣化を早めないような対策を考えていく必要がある（文化財保護課）

- 定期的なメンテナンスをする必要がある（事務局）
 - 展示の仕方を工夫する（文化財保護課）
 - 安全面を配慮して囲いや被せられるものを設置するなど工夫する（観光課）
 - ・住民票の発行機能の有無については記載するのか
 - 今は記載しない。理事者の意見を聞いてからどうするかを決定する（観光課）
 - ・幼児ルームに設置してあった授乳室はどうするのか
 - 1階の給湯室に設ける予定（観光課）
 - ・古墳の築造風景をあらわしたジオラマはなぜ1階に設置するのか
 - 古墳のつくりかたがデフォルメで表現されているので大変わかりやすく、多くの人々に理解してもらいやすい。目玉となる展示物として1階に設置する（文化財保護課）
 - 2階に設置しないのはスペースの問題もあるが古墳の築造風景をあらわしたジオラマは文化財的な価値があるわけではないので2階より1階に設置したほうがゾーン分けのテーマと合致する（事務局）
 - ・古墳の築造風景をあらわしたジオラマを1階の出入り口付近に設置してしまうと入館した時の印象が固定化されてしまうのではないか
 - 印象が固定化してしまうのはよくない。観光拠点とするならば来場者が来館する度に違う印象を抱くような展示工夫が必要である（有識者）
- （大阪府）
- ・修羅（大）レプリカはシンボルの一つになるが出土時に型取りをした貴重なレプリカであり、同じものが二度と造れない貴重な資料である。可能であれば2階に展示する事を検討し、ケース内展示や風雨にさらされないような展示工夫をした方が良い
 - 運送方法は現在検討中。設置場所についても問題点が多いのでさらに検討を進めていく（事務局）

3. 「第6章観光案内計画」案について（説明：観光課）

（有識者）

- ・インバウンドを意識するのであれば荷物の預かり機能を設置したほうが良い
- ・周りの商店街と一体化し、盛り上げていったほうが良い

（有識者）

- ・看板の多言語化も全ての言語を表示するのは難しいのでQRコードを活用してはどうか
- ・池に水鳥形埴輪のラバーダックを浮かべる、水鳥形埴輪の拡張現実（AR）を出現させるなどしたら面白いと思う
- ・葛井寺の南大門から入ってアイセルシュラホールへ来館するルートのほうが街やお寺の雰囲気が楽しめる

（大阪府）

- ・観光客が目的地へたどり着けることが大事

- ・アイセルシュラホールが観光拠点になることによって現在発行されているウォーキングマップのルートが変更になることも考えておかなければならない

4. 「第7章文化財展示計画」案について（説明：文化財保護課）

（有識者）

- ・p17 3-1 基本理念の「きちんと」をもっと具体的に記載すべきである
- ・世界遺産百舌鳥・古市古墳群の価値とは何か具体的に明記する
- ・日本で2番目に大きな古墳がある、多く古墳が現存している、そしてその古墳を造るのに多大な労力がかかっている、いろんな形の古墳がある、というのがメインになってくるとは思う
- ・アイセルシュラホールの「中」と「外」をつなぐガイダンスの役割をどうするか検討しなければならない
（例：アイセルシュラホールへ来館したら写真や解説パネルで古墳の大きさを理解することができる、綺麗な写真が撮影できるスポットの紹介など）
- ・修羅（大）レプリカは文化財として価値のあるものであるので可能であればアイセルシュラホールへ移設したい
- ・古墳の築造風景をあらわしたジオラマについては文化財的な観点から考えると2階に展示するのは不適切だと思う

（有識者）

- ・アイセルシュラホールから現地へ足を運んでもらうことが重要である。その為には見どころを示すような展示が大切である
- ・文化財以外の見どころもわかりやすく紹介したい
- ・展示をつくっていくうえで文化財的な価値以外にも地域の方々やボランティアガイドが関わっていくことも大切
- ・常に展示物が固定化させないように企画展示ができるスペースがあったほうがよい

（文化財保護課）

- ・修羅（小）と水鳥形埴輪はどこに展示する予定か
→収蔵展示室を設置することを考えるとA1～A4のエリアが適切ではないかと思っているが検討中である（事務局）

5. 別紙資料 参考例 収蔵展示室について（説明：事務局）

（大阪府）

- ・修羅（小）や水鳥形埴輪は重要文化財なので設備の整った展示環境が大事である
- ・特に修羅（小）は木製品なので移設するとなると展示環境が大きく変わるので注意する必要がある
- ・できれば参考例の金沢縄文ワールドのような収蔵展示室が望ましい
- ・展示環境を整えて持続可能な展示にしていきたい

6. その他

1) 藤の森古墳について

(有識者)

- ・藤の森古墳を整備してもっと活用したほうがよい
- 安全面を配慮したうえで内部公開をするなど活用を検討する（観光課）
- 石室が見られるのは貴重である。上から見降ろせるようにするなど見せ方を工夫したほうが良い（文化財保護）
- 制限を付けて公開するなどしても良いと思う（事務局）

2) アイセルシュラホールの役割について

(大阪府)

- ・アイセルシュラホールの位置づけや視点の整理が必要である
- ・推薦書に記載されている価値伝達の為の機能として、個別構成資産ガイダンスとしての役割の他に、背景知識紹介としての役割、展望エリアとしての役割を追加することができ、世界遺産の価値が高まっていくというふうに評価できると思う
- ・展示によってさらに世界遺産としての価値が高まってくるような展示工夫が出来ればなお良い

以上